

海員春闘・中央交渉 日本カーフェリー労務協会
第1回 日本カーフェリー交渉委員会（概要）

日本カーフェリー労務協会との第1回中央交渉は、13時30分から開催した。労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表し猪飼康之会長、組合側を代表し松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。続いて交渉委員会運営の確認の後、組合側から要求の趣旨説明を、船団側幹事から船団側申し入れ事項の趣旨説明を行った。

引き続き、日本カーフェリー労務協会の構成会社の確認を行った後、「有効期間」については労使双方の申し入れ事項であることから、仮合意とした。

交渉では組合側から、期限内自主円満解決に対する考え方について質したところ、船団側は異論ないとの考えを示した。また、組合要求については、真摯に検討して対応したいとした。

最後に、次回交渉を3月9日13時30分から、組合本部地下大会議室で開催することを確認し、14時に第1回交渉委員会を終了した。

船団側あいさつ（概要）

われわれフェリー業界を取り巻く経営環境は、まだまだ厳しいものがあります。地方の人口減少に伴う生活航路維持の難しさも年々重くのしかかっており、加えて長引く円安や国際情勢の不安定化により、燃料価格の高騰はもとより、船舶の建造費、さらには定期点検に伴う修繕費が上昇し続けています。このような厳しい収支構造の中にあっても、安全運航を維持し、国民生活の足を守り抜くためには、激動する内外の情勢と、極めて厳しい経営実態を正確に注視した上での検討が必要となり、真摯に議論を行いたい。

「海員だより」